

1月29日(月曜日)

日本経済新聞

1月29日

月曜日

人工肛門、患者がコントロール

東北大学とトーキンなどが排便時期をコントロールできるようにする。

は、形状記憶合金を応用して人工肛門(こうもん)を開閉する装置Ⅱ写真Ⅱを開発した。形状記憶合金で作った一種の「人工筋肉」を腹部の人工肛門に装着、患

トーキンと
東北大など
形状記憶合金で

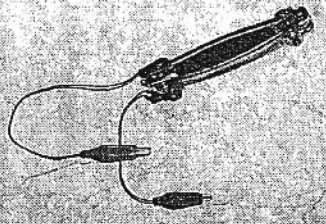
した。

ニッケル・チタン形状記憶合金の二枚の板(長さ五センチ)にコイルを巻いた構造。

腹部の皮下にある人工肛門の末端を二枚の板ではさむように装着。体外からコイルに電流を流して合金を熱すると口が開き、温度が下がると閉まる。動物実験で機能を確認した。人工肛門を使用する患者は国内で十万人以上とされる。

者が排便時期をコントロールできるようにする。東北大加齢医学研究所の山家智之助教授、同流体外科学研究所の高木敏行教授らがトーキン、東北電子産業(仙台市)などと共同開発

トーキンと東北大など形状記憶合金で



トーキンと
東北大など

形状記憶合金で

トーキンと東北大など形状記憶合金で